

シグマ研究委員会核データ専門部会
ガンマ線生成核データ W. G. 昭和 56 年度第 7 回会合議事録

日 時 : 昭和 57 年 1 月 25 日 (月) 13 : 30 ~ 17 : 30
場 所 : 原研本部第 6 会議室
出席者 : 水本, 浅見 (哲), 五十嵐 (原研), 川合 (将), 吉田 (NAIG),
山越 (船研), 井頭, 播磨, 北沢 (東工大)

配布資料 :

- 1) 計算プログラム TNG の入力リスト (水本)
- 2) 計算プログラム GNASH の ^{59}Co に対するサンプル入力データ及び計算結果 (浅見)
- 3) 14 MeV 中性子による ^{59}Co からの粒子・ガンマ線放出計算結果に基づく GNASH と GROGI プログラムのクロス・チェック (播磨)
- 4) 東工大ペレットロンによって得られた中性子捕獲ガンマ線スペクトル (井頭)
- 5) 崩壊熱計算における β -delayed γ -ray spectra の評価方法に関する資料 (吉田)

議 事 :

I. 一般報告 (五十嵐) :

- 1) 昭和 57 年春の原子力学会における核データ・炉物理合同会合 (4月2日, 11:35-13:00)
 - 熱中性子炉体系標準計算コード (土橋)
 - 崩壊熱 (秋山, 吉田)
 - INDC 特別会合報告 (原田)
- 2) 秋の学会の指定テーマは "Covariance"。
- 3) Nuclear Data for Science and Technology に関する Antwerp 会議 (Sept. 6-10, 1982) で JENDL について話をする。
Neutron Induced Reactions についての Smolenice 会議 (June

21-25, 1982)

- 4) 1982年にΣ委の中に医学用核データ調査グループを置くという計画がある。
- 5) 核データ W.G.メンバーの若返りに対する要望。
(老人の若返りなのか、それとも年令の若返りに対する要望なのか?)
- 6) ORIGEN の入力データ・セットの見直しの必要性。

II. 作業経過報告：

- 1) 資料(1)に基づいて TNGの説明(水本)。
 - ガンマ線を含めて tertiary emission までしか扱えない。
 - E 1 遷移だけ解析的に扱い、E 2 遷移は branching ratio を入れることによって計算する。
 - スピナー軌道相互作用が入っていない。
 - Te の計算方法が不完全。
 - 出力形式の整備が必要。
- 2) 資料(2)に基づいて GNASH の使い方の説明(浅見)
- 3) 資料(3)に基づいて GNASH と GROGI の計算結果の比較を行なった。計算に用いた光学ポテンシャルの相違、離散準位、イラスト準位、前平衡過程に関するプログラム相互の違いによって明確な結論が得られなかった。この問題は次回に引続いて検討する(播磨)。
- 4) 資料(5)に基づいて説明があり、 β -delayed γ -ray spectra の計算に GROGI, GNASH を用いたという要望が出された(吉田)。